

2016 年度聖書の集い（第 4 回）

2016 年 9 月 14 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 482 番 「いつくしみ深き」

2、お祈り

3、聖書 「マタイによる福音書 11：25～30（新約聖書 20 ページ）

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

「④ 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう。」

今月の言葉を聞いたことがありますか。教会の玄関にはよく、聖書の言葉が書かれていることがあります。そのときに多く選ばれているのが、この「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」という言葉です。

この言葉を教会の門に書くことによって、教会とはどんなところなのか、また教会に行く人たちが信じている神さまとはどんな方なのかを道行く人たちに知らせているように思います。それではこの言葉の意味について、考えていきたいと思います。

① 教会（神さま）はだれのもの？

みなさんの目には、教会に行っている人の姿はどのように映っているでしょうか。いつもニコニコ、何の悩みもないような人たちの集まりのように感じるかもしれません。またいつも良いことをしていて、怒ることなどないと思っはいませんか。

しかしイエス様はこのようなことを言われています。

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

つまり神さまなしでも生きていけるような人には、教会なんて必要ないのですね。生きることに辛さを感じている人のオアシスが教会であり、神さまなのです。

② 疲れ、重荷を負う人たち

新聞やネットのニュースを見ていると、殺人や自殺などの悲しい事件を毎日のように目にします。またわが子を虐待して死に至らせる人までいます。理由は様々あるでしょう。しかし自分の抱えている苦しみや痛みをどうしたらよいか分からない、という人が多くいるのは事実ではないかと思います。

情報機器の発達で、自分のメッセージを発信することは容易になりました。しかし心の一番深いところを話せる相手はいるでしょうか。家族にも言うことができない思いを、じっと聞いてくれる人がそばにいますか。

わたしが一度離れた教会に戻ろうと決意したのは、病院のベッドでした。入院したときに、孤独を感じてしまったわけです。しかしそのときに、神さまにお祈りすることができました。教会の門を叩くことができました。今こうしてみなさんの前で話すことができるのは、そのときに神さまに重荷を背負ってもらったからだと思います。

③ 神さまにすべてを委ねる

「休ませてあげよう」とイエス様は言われます。自分が背負っているもの、苦しみも、悲しみも、すべて委ねてしまっているのです。

わたしたちは決して強くなくていいのです。弱い自分を、どうぞさらけ出してください。完全な人間なんてどこにもいません。完全ではないから、神さまを必要としている人たちがこんなにもいるのです。

どうぞ、疲れたとき、自分の抱える重荷に耐え切れなときは、いつでも教会の門を叩いてください。神さまにお祈りしてみてください。お祈りに決まった形などありません。「神さま～」と呼びかけ、自分の心の思いを訴えるのも、立派なお祈りです。

そして子どもたちにも伝えてあげてください。辛いとき、苦しいときに、いつも聞いてくれる人がいるということ。ご家族もそうでしょう。そしてそれだけではなくもっと大きな存在も、いつも見守っているということ。を教えてほしいと思います。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から